

令和3年度 学校法人浅井学園 事業報告

1、法人の概要

(1) 基本情報

① 法人の名称

学校法人浅井学園

② 主たる事務所の住所

北海道江別市大麻宮町8番地

③ 電話番号

011-386-5016

④ FAX番号

011-802-6026

⑤ ホームページアドレス

認定こども園大麻まんまるこども園 … <http://www.ooasa.ed.jp/>

認定こども園第2大麻こども園 … <http://www.dai2-ooasa.net/>

札幌ファッションデザイン専門学校DOREME … <http://www.doreme.ac.jp/>

旭川調理師専門学校 … <https://www.asacho.ac.jp/>

(2) 建学の精神

愛（思いやり）と和（協力、協調性）の心を育む。

(3) 学校法人の沿革

1971年11月 学校法人北海道浅井学園創立。

1972年 4月 大麻幼稚園（現：認定こども園大麻まんまるこども園）開園。

旭川調理師専門学校開校。

1974年 4月 第2大麻幼稚園（現：認定こども園第2大麻こども園）開園。

2011年 4月 サンサンキッズ開所。

2019年 4月 第2サンサンキッズ開所。

北海道ドレスメーカー学院（現：札幌ファッションデザイン専門学校DOREME）の設置者が当法人に変更。

なお、本校は1939年開学、2019年9月をもって創立80周年となる。

法人名を浅井学園に変更。

現在に至る（認定こども園2園、専門学校2校、学童保育所2施設を運営）

(4) 設置する学校・学部・学科等

認定こども園大麻まんまるこども園

認定こども園第2大麻こども園

札幌ファッションデザイン専門学校DOREME ファッション総合学科、専攻科、夜間科

旭川調理師専門学校 調理師養成科

学童保育所サンサンキッズ

学童保育所第2サンサンキッズ

(6) 役員の概要

職名		氏名	勤務状況	最新就任年月日	選任区分	現在の職業	
定数 7	実数 2	理事長	浅井 洋子	常勤	H28.6.21	第6条2号	学校法人浅井学園理事長
	理事	金井 英明	非常勤	H28.6.8	第6条3号	(有)イルミネージュ代表取締役	
	理事	石田 泰子	非常勤	H28.6.8	第6条3号	石田企画代表	
	理事	竹内 寿朗	常勤	R4.4.1	第6条1号	認定こども園大麻まんまるこども園長	
	理事	近江 さつき	常勤	H28.6.8	第6条1号	認定こども園第2大麻こども園長	
	理事	浅井 学	常勤	H28.6.8	第6条1号	札幌ファッションデザイン専門学校DOREME校長	
	理事	前川原 春吉	常勤	H29.4.1	第6条1号	旭川調理師専門学校校長	
定数 2	実数 2	監事	本間 克夫	非常勤	H28.6.8	第8条	本間克夫税理士事務所
	監事	谷川 幸雄	非常勤	H28.6.8	第8条	-	

(7) 評議員の概要

		氏名	勤務状況	最新就任年月日	選任区分	現在の職業	
定数 15	実数 15	評議員	浅井 洋子	常勤	H28.6.8	第22条3号	学校法人浅井学園理事長
	評議員	前川原 春吉	常勤	H28.6.8	第22条2号	旭川調理師専門学校校長	
	評議員	近江 さつき	常勤	H28.6.8	第22条1号	認定こども園第2大麻こども園長	
	評議員	浅井 学	常勤	H28.6.8	第22条3号	札幌ファッションデザイン専門学校DOREME校長	
	評議員	金井 正治	非常勤	H28.6.8	第22条3号	(株)アトリエ陶代表取締役	
	評議員	和田 壬三	非常勤	H28.6.8	第22条3号	和田・下津谷法律事務所長	
	評議員	竹内 寿朗	常勤	R3.4.1	第22条2号	認定こども園第2大麻こども園長	
	評議員	川村 明美	常勤	H28.6.8	第22条3号	札幌ファッションデザイン専門学校DOREME副校長	
	評議員	齊藤 佐知子	非常勤	H28.6.8	第22条3号	江別市議会議員	
	評議員	市橋 さゆり	常勤	H28.6.8	第22条3号	旭川調理師専門学校教頭	
	評議員	川村 道夫	常勤	H28.6.8	第22条3号	学童保育所指導員	
	評議員	宮崎 善昭	常勤	R1.5.24	第22条1号	浅井学園法人事務局長	
	評議員	小林 治	非常勤	R1.11.1	第22条3号	札幌商工会議所所属、但し個人として就任	
	評議員	森忠 裕	非常勤	R2.1.14	第22条3号	(株)ヤブシタ代表取締役社長	
	評議員	大内 勉	非常勤	R2.1.14	第22条3号	(株)池田歯車製作所取締役、但し個人として就任	

(8) 教職員の概要

	人数	平均年齢	
本務	55名	41.5歳	※常勤
兼務	42名	47.7歳	※非常勤
合計	97名	44.6歳	

2、事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

- ① 専門学校…2校運営。実践を想定した実習指導により即戦力を養い、行事を通して協調性や目標達成による喜び体感を目指す。
- ② 認定こども園…2園の運営。縦割り保育により「愛」と「和」を育て自立を目指す。

(2) 中期的な計画

長年に渡り健全な運営が行えるようそれぞれの施設において定員充足を目指す。

また、認定こども園大麻まんまるこども園舎は平成22年度に建設、令和2年度で10年が経過した。耐用年数を「30年」として減価償却しているが、依然として建築資材及び人件費が高騰しており、第2号基本金への組入を令和2年度より開始した。

3、財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

貸借対照表の状況と経年比較

(単位：円)

	H29	H30	H31(R1)	R2	R3
固定資産	1,199,557,586	1,217,755,830	1,745,710,743	1,716,825,120	1,677,336,928
流動資産	447,122,419	324,021,508	586,881,725	649,080,313	678,311,884
資産の部合計	1,646,680,005	1,541,777,338	2,332,592,468	2,365,905,433	2,355,648,812
固定負債	120,200,000	79,840,000	68,920,000	58,840,000	0
流動負債	201,620,586	97,538,061	89,422,202	96,160,709	102,663,570
負債の部合計	321,820,586	177,378,061	158,342,202	155,000,709	102,663,570
基本金	1,407,823,265	1,419,260,918	2,070,784,957	2,107,133,443	2,134,493,840
繰越収支差額	-82,963,846	-54,861,641	103,465,309	103,771,281	118,491,402
純資産の部合計	1,324,859,419	1,364,399,277	2,174,250,266	2,210,904,724	2,252,985,242
負債及び純資産の部合計	1,646,680,005	1,541,777,338	2,332,592,468	2,365,905,433	2,355,648,812

② 資金収支計算書関係

資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：円)

		H29	H30	H31(R1)	R2	R3
収入の部	学生生徒納付金収入	131,280,320	144,666,560	141,433,920	140,233,100	149,646,618
	手数料収入	1,336,700	1,664,860	2,007,494	2,132,584	2,107,200
	寄付金収入	0	0	241,330,254	0	0
	補助金収入	446,641,826	222,340,297	276,083,683	335,459,614	356,746,281
	資産売却収入	80,000	10,000	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	4,938,000	4,980,929	9,274,356	7,707,688	10,887,717
	受取利息・配当金収入	16,882	2,656	128,567	188,139	298,270
	雑収入	9,343,349	11,640,952	19,077,089	12,275,153	13,669,444
	借入金等収入	200,000,000	0	0	0	0
	前受金収入	58,663,505	54,069,500	63,439,000	70,754,000	75,974,000
	その他の収入	390,548,523	91,289,801	108,760,228	93,626,724	106,544,049
	資金収入調整勘定	-78,434,912	-74,787,485	-71,627,599	-89,985,375	-95,898,388
	前年度繰越支払資金	269,402,281	421,017,507	307,897,528	569,323,626	620,800,988
	収入の部合計	1,433,816,474	876,895,577	1,097,804,520	1,141,715,253	1,240,776,179
支出の部	人件費支出	198,466,509	218,507,235	274,752,205	295,970,478	308,111,929
	経費支出	81,324,274	84,528,425	110,283,812	122,769,315	139,405,111
	借入金等利息支出	752,554	380,601	454,938	367,918	0
	借入金等返済支出	9,240,000	150,440,000	10,920,000	10,080,000	68,920,000
	施設関係支出	668,418,378	55,467,871	34,191,875	3,495,500	1,519,350
	設備関係支出	338,105	5,080,508	1,346,565	9,852,986	2,750,430
	資産運用支出	0	0	0	0	0
	その他の支出	63,866,078	74,678,997	102,101,559	83,514,666	83,568,557
	資金支出調整勘定	-9,606,931	-20,085,588	-5,570,060	-5,136,598	-15,284,094
	翌年度繰越支払資金	421,017,507	307,897,528	569,323,626	620,800,988	651,784,896
	支出の部合計	1,433,816,474	876,895,577	1,097,804,520	1,141,715,253	1,240,776,179

活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	364,956,195	385,293,598	676,206,796	497,103,589	533,057,260
教育活動資金支出計	279,790,783	303,035,660	385,036,017	418,739,793	447,517,040
差引	85,165,412	82,257,938	291,170,779	78,363,796	85,540,220
調整勘定等	4,353,108	15,865,584	7,445,899	-3,839,688	15,937,233
教育活動資金収支差額	89,518,520	98,123,522	298,616,678	74,524,108	101,477,453
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	540,413,062	0	0	704,550	0
施設整備等活動資金支出計	668,756,483	60,548,379	35,538,440	13,348,486	4,269,780
差引	-128,343,421	-60,548,379	-35,538,440	-12,643,936	-4,269,780
調整勘定等	0	0	0	0	0
施設整備等活動資金収支差額	-128,343,421	-60,548,379	-35,538,440	-12,643,936	-4,269,780
小計(教育活動資金収支差額 +施設整備等活動資金収支差額)	-38,824,901	37,575,143	263,078,238	61,880,172	97,207,673
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	260,292,290	65,197,545	90,561,295	76,807,114	105,211,537
その他の活動資金支出計	69,852,163	215,892,667	92,213,435	87,209,924	156,897,894
差引	190,440,127	-150,695,122	-1,652,140	-10,402,810	-51,686,357
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	190,440,127	-150,695,122	-1,652,140	-10,402,810	-51,686,357
支払資金の増減額(小計+ その他の活動資金収支差額)	151,615,226	-113,119,979	261,426,098	51,477,362	45,521,316
前年度繰越支払資金	269,402,281	421,017,507	307,897,528	569,323,626	620,800,988
翌年度繰越支払資金	421,017,507	307,897,528	569,323,626	620,800,988	651,784,896

③事業活動収支計算書関係

事業活動収支計算書の状況と経年比較

	H29	H30	H31(R1)	R2	R3
教育活動収支					
事業活動収入の部					
学生生徒等納付金	131,280,320	144,666,560	155,793,920	140,233,100	149,646,618
手数料	1,336,700	1,664,860	2,007,494	2,132,584	2,107,200
寄付金	0	0	775,493,462	0	0
経常費等補助金	218,057,826	222,340,297	276,083,683	335,459,614	356,746,281
付随事業収入	4,938,000	4,980,929	9,274,356	7,707,688	10,887,717
雑収入	9,343,349	11,640,952	6,077,089	12,275,153	13,669,444
教育活動収入計	364,956,195	385,293,598	1,224,730,004	497,808,139	533,057,260
事業活動支出の部					
人件費	198,466,509	218,507,235	274,752,205	295,970,478	308,111,929
経費	104,330,710	119,755,407	152,800,439	165,003,424	181,751,010
徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計	302,797,219	338,262,642	427,552,644	460,973,902	489,862,939
教育活動収支差額	62,158,976	47,030,956	797,177,360	36,834,237	43,194,321
教育活動外収支					
事業活動収入の部					
受取利息・配当金	16,882	2,656	128,567	188,139	298,270
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	16,882	2,656	128,567	188,139	298,270
事業活動支出の部					
借入金等利息	752,554	380,601	454,938	367,918	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	752,554	380,601	454,938	367,918	0
教育活動外収支差額	-735,672	-377,945	-326,371	-179,779	298,270
経常収支差額	61,423,304	46,653,011	796,850,989	36,654,458	43,492,591
特別収支					
事業活動収入の部					
資産売却差額	67,400	0	0	0	0
その他の特別収入	228,584,000	0	13,000,000	0	0
特別収入計	228,651,400	0	13,000,000	0	0
事業活動支出の部					
資産処分差額	0	7,113,153	0	0	1,412,073
その他の特別支出	0	0	0	0	0
特別支出計	0	7,113,153	0	0	1,412,073
特別収支差額	228,651,400	-7,113,153	13,000,000	0	-1,412,073
基本金組入前当年度収支差額	290,074,704	39,539,858	809,850,989	36,654,458	42,080,518
基本金組入額合計	-689,432,622	-21,576,482	-654,087,881	-36,348,486	-27,360,397
当年度収支差額	-399,357,918	17,963,376	155,763,108	305,972	14,720,121
前年度繰越収支差額	315,176,565	-82,963,846	-54,861,641	103,465,309	103,771,281
基本金取崩額	1,217,507	10,138,829	2,563,842	0	0
翌年度繰越収支差額	-82,963,846	-54,861,641	103,465,309	103,771,281	118,491,402

(参考)

事業活動収入計	593,624,477	385,296,254	1,237,858,571	497,996,278	533,355,530
事業活動支出計	303,549,773	345,756,396	428,007,582	461,341,820	491,275,012

(2) その他

①有価証券の状況

	H29	H30	H31(R1)	R2	R3
区分			株式	株式	株式
銘柄			(株)北洋銀行	(株)北洋銀行	(株)北洋銀行
貸借対照表計上額			6,910,900	6,910,900	6,910,900

②借入金の状況

	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
借入先	北洋銀行札幌西	北洋銀行札幌西			
期末残高	40,360,000	0			
利率、返済期限	1.1%、10年	1.1%、10年			
借入用途、返済期限	旭川調理校舎建設	旭川調理校舎建設			
借入先	北洋銀行野幌中央	北洋銀行野幌中央	北洋銀行野幌中央	北洋銀行野幌中央	北洋銀行野幌中央
期末残高	100,000,000	89,920,000	79,840,000	68,920,000	0
利率	0.5%、10年	0.5%、10年	0.5%、10年	0.5%、10年	0.5%、10年
借入用途、返済期限	第2大麻園舎建設	第2大麻園舎建設	第2大麻園舎建設	第2大麻園舎建設	第2大麻園舎建設
借入先	北洋銀行野幌中央	北洋銀行野幌中央			
期末残高	100,000,000	0			
利率	0.5%、6カ月	0.5%、6カ月			
借入用途、返済期限	第2大麻園舎建設	第2大麻園舎建設			

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

令和3年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響を受け、行事や研修などが制限された中での活動となった。

専門学校においては、対面形式の広報活動できず電子や紙などの媒体が中心となり学生募集が行われたが、より有効な方法が模索されている。

こども園においては、保護者の方々にご理解ご協力を頂きながら、感染防止を徹底し、行事の日程変更、参加者制限などして運営した。

今後の課題として、少子化が進行する中で選ばれる就園、

就学施設として青少年や社会のニーズに対応できる柔軟な学園運営が求められる。

働きやすい職場としての規則や規程の改善を継続し、各施設独自の運営を尊重しつつ情報シェア、協働を行い職員一人一人が生かされる職場を目指す。

令和3年度 大麻まんまるこども園 事業報告

1、【教育・保育目標】

- (1) 各クラスでの意識づけや、全体集会などを活用し、生活意欲の向上や生活習慣の習得、自立心を促す事ができた。
- (2) 朝の挨拶や言葉を介した関わりを大切にし、人間関係の向上を促すことができた。
- (3) 縦割保育を基盤としながら、横割保育をバランスよく取り入れ、様々なクラスや職員と関連を持てるように、活動計画を立てることができた。
- (4) 遊びの中で、場所や人への安心感を抱き、自分の気持ちを言葉で表現できるような雰囲気作りや保育活動を大切にしてきた。
- (5) 全身運動、微細運動の関連性を意識し、経験を積み重ねることで、心身共に健康でいられるように配慮した。

2、【指導の重点】

- (1) 様々な活動のねらいを改めて確認することを大切にし、保育者がそれらを認識した上で保育計画と子どもへの関わりでの配慮点として反映させられるようにした。
 - これまで実施してきた行事・活動についても、ねらいや内容を改めて振り返ることで、今後も大切にすべき所や改善点を認識出来るように進めることが出来た。
- (2) 子どもが主体的に生活する為に、適切な関り方や保育環境のあり方を考え、重要性を園全体で認識する。
 - 乳児部クラスでは、会議などで環境設定の重要性を話し合う機会を設定したが、質の高い実践に繋げる事ができなかった。子どもが遊びを通じて獲得できる動作・認知などがしっかりと提供されるよう、全体で意識を高め合う取り組みを今後も継続していく。
 - 幼児部では、玩具の見直しを行い、幼児期に経験させたい玩具・教具を準備する事ができた（今後も少しずつ購入していく）
- (3) コロナ感染対策を講じた上で、保育活動の計画と実施など、「出来る形」を模索し、保育の提供を継続できるようにしてきた。
 - 年度の中で、1号認定の休園措置、午前保育措置、家庭保育協力をした上で教育・保育の継続など、様々な形態での措置をとってきた。感染対策では、行事の中止・延期、内容の縮小、保護者の入室禁止やマスク着用、アクリルパネル設置など、感染状況を踏まえながら検討してきた。今後も現状のルールを踏まえた上で、「出来る形」を模索し、教育・保育を継続していきたいと考えている。

3【教育活動の重点】

- (1) 子どものモデルとなるべく保育者の在り方（言葉・所作など）を常に意識出来るように、職員全体で確認することを大切にしてきた。
- (2) 日常の継続と実体験を大切にした保育を提供出来るように心掛けてきたが、田植えや稲刈り、レストランごっこなど、コロナ感染状況を鑑み、中止した行事も多くあった。
- (3) 保護者が実際に保育の様子を見る機会がなかった為、ホームページや動画配信など、形を変えて、子どもの保育の様子を知ることが出来るように配慮してきた。
- (4) 子どもの安全、園の危機管理への意識を高められるようにしてきた。

4【広報活動】

- (1) ホームページで保育活動の様子をこまめに更新することで、2021年度は、一カ月平均1116名の方に見て頂ける結果となった。
- (2) 未就園児にこにこクラスでは、コロナ感染症の為、活動を中止することが多く、保護者への発信が思うように出来なかった。また、参加者も年間を通じて13名と少なかった。
- (3) 園周辺の自治会へ、戸外での活動となるマーチングのねらいや活動時期、についてお手紙を全戸配布した。園や活動への理解や協力を繋がるように配慮した。

5【施設設備】

- (1) 園舎内廊下の湧水箇所原因の把握をし、修理を行った。
- (2) ホール照明調光卓が10年を経過し、不具合が出ていた為、新調した。
- (3) 固定電話回線を1回線増やし、乳児部・幼児部共に2回線ずつ設置した。
- (4) ICT補助金を活用し、ICTシステムを導入し、園児の登降園の時間管理やコロナ濃厚接触者リストアップ時の保育時間把握に活用している。
- (5) 園内設置の消火器が製造年月日から10年経過していた為、全て新しいものに変えた。

6【その他】

- (1) 第12回キッズフェスティバルは、新たに野幌総合運動公園体育館で開催。コロナ禍の為、単独での開催とした。
- (2) 西小学校との交流は、コロナ禍で縮小しているが、その中でも小学生の学芸会練習の見学など、行えるものは実施し、小学校との接続も大切にしていく。

令和3年度 第2大麻こども園 事業報告

1、教育・保育目標

- (1) 模倣を通して育ち合う縦割り保育をより充実させる事ができた。
- (2) 特色ある芸術的教育（活動・遊具・食）の中で、意志の確立を目指す事が出来た。
- (3) 自然と愛と美の環境の中で、信頼と絆を培い、その子らしさを育てた。
- (4) 遊びの中から個々の新たな発見や能力を見出せる様、環境作りに努める事が出来た。
- (5) 0～2歳は、体と心の力の土台となる様、愛情豊かに応答的に関わり、6歳までの成長を見通して発達を促していく事ができた。

2、指導の重点

★信頼が積み重なる保育体制を目指して

- (1) 0歳～5歳まで連続した保育の繋がりによって、子どもがより意志の確立に向かって成長できる様、保育研究を進める。
→学期ごとの保育カリキュラム打合せや預かり保育打ち合わせを通して、乳児から幼児への移行と接続について共通認識を持つよう会議を持ち進める事ができた。
- (2) 子どもに関わる全ての職員が、専門又は様々な研修を通して子ども理解を深め保育の質が確保出来るように努める
→北海道私立幼稚園協会の研修、乳幼児専門講座、キャリアアップ研修など個人で、また必要と思うものについては園単位で講座を受講する事が出来、コロナ禍で思う様に進まない中で、保育教諭のモチベーションの維持と資質向上を図る事が出来た。
- (3) より丁寧で細やかな保護者対応を大切にし、保護者の子育て力に気づかせ、保護者自身がいきいきと子育てに向かえる生活を導く
→緊急事態宣言や蔓延防止措置がでた場合も、どの形なら行えるかを考えた上で保護者参観を実施し、個人懇談や電話で1人1人に対応する事ができた。また、園長と保護者との懇談を行い（約80名）、子育てのアドバイスを直接行い、またその共有が数年後の理解者になってもらえる様、大切な時間を過ごす事ができた。

3、教育・保育活動の重点

- (1) 保育の中心である物作りや飼育・栽培に子どもも大人も直接関わり、本物に触れ心を動かす活動に重点を置く
→アトリエの陶の広大な畑を利用して、お父さんと子どもで栽培活動を行った。共に汗を流し、自然に触れる活動は第2の良さや持ち味としても生かす事ができた。 **写真①**
- (2) 園独自の教材（自然素材・楽器・遊具）の理解を深め、特色から成長の効果を生む様進める
→特に水彩絵の具（植物性絵具）は不安な子や落ち着かない子に効果があり、取り組む事で没頭し、癒され、結果情緒の安定に繋がっている。日常やコロナ禍においても子ども達の必須

の教材である事を改めて見直す事ができた。 **写真②**

(3) 担任及び補助教諭は、どの年齢の枠も保育ができる体制である様進める

→012, 345の担任・補助は、交代保育ができる状況をあえて創り出し、日常の活動や行事の中でお互いの指導に触れ、個々の視野の広がりに繋げる事ができた。

4、広報活動（定員確保の為の取り組み）

(1) 未就園児の保育室を見直し、充実した遊びが展開され子ども自身が満足できる空間の提供に力を入れる

→未就園児が使用する保育室に新しく遊具を購入し、より遊びたい気持ちが掻き立てられ、乳幼児の健全な成長を促せるように、充実を図る事ができた。 **写真③**

(2) 社会状況に乗じて SNS の発信を充実させる

→新たなホームページを作成し、令和4年度から施行する。

(3) 園開放では、園の特色である手作りや食等内容をより充実させる

→アトリエ陶とコラボし、未就園児教室と陶芸を合わせた楽しい体験を提供する事ができ、園の特色や良さを同時に伝える事ができた。 **写真④**

5、施設設備の改修・充実

(1) バス停車コーナーの安全柵 **写真⑤**

(2) ワゴンバスの入れ替え **写真⑥**

※ 駐車場の出入り口を歩行者通路と車両専用通路に分ける **写真⑦**

6、その他

(1) 北翔大学・同子ども学科、大谷短大、札幌こども専門学校の実習生の受け入れ9名

(2) 関倫尚氏 社会オイリュトミー講座（5月に保護者・教職員で開催）

(3) NHK北海道スペシャル「北の息吹を刻む」に 園児・職員出演（6月放映）

(4) 岩橋亜希菜氏 子育て講座（10月に保護者・教職員で開催）

(5) 江別第2中学校3年生の家庭科授業の交流（10月に第2中学校で開催） **写真⑧**

(6) 藤田春義氏 お父さんの絵本講座、子育て講座（11月開催）

(7) 保護者手作りサークルの会（11月開催）

(8) 中橋賢一氏 食育講座（12月開催）

(9) アイヌの歌と踊り鑑賞会（3月開催） **写真⑨**

1. 教育目標

1) 職業教育における特色あるカリキュラムの編成計画

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、4～5月中旬までは自宅学習・遠隔授業を行った。5月下旬からは三密を避けた授業を徹底し、対面授業へと移行。授業の遅れについては、春夏秋冬休みを短縮し対応した。

：Dcreation イベントについては、ファッションショーの形式を変更し、プロモーション動画の撮影を行い対応した。カリキュラムは予定通り行うことができた。

2) 関連分野の企業や業界団体等と連携したカリキュラム編成計画

①外部団体との企画事業は、コロナの為できなかった。

②裏参道まつり、北海道メカズはコロナの為中止となった。1/22・23の2日間でモリガレッジが開催され、作品展示を行った。

③札幌地区各イベントは、コロナの為全て中止となった。

④本年度は、学内コンパを2件行った：ボウリングウェアデザイン画コンテスト、別海町サウナ衣装コンテスト

3) 職業教育に対する外部関係者評価の編成計画

学生オリジナルブランド発信「：Dcreation」は、コロナの為、ファッションショーの形式を変え、設立したブランドのプロモーション動画の撮影をして、YouTubeで配信を行った。

4) 授業評価の結果を踏まえたカリキュラムの編成計画

：Dcreation イベント時に来られた審査員や、外部講師から授業カリキュラムについてヒヤリングを行い、業界のニーズに即したカリキュラムの在り方を練り直し、次年度に活かすこととした。

5) 資格・検定におけるカリキュラムの編成計画

ファッション教育振興協会が行う検定について、令和2年度より検定期間が大幅にずれたことから、検定受験の時期の見直しを行った。

6) インターンシップ、東京研修、海外研修についての教育編成計画

本年度は、新型コロナウイルスの影響から東京研修が延期となった。

7) 関連分野における業界等との連携による教員確保計画

非常勤講師については、本年度の計画を踏襲し教員確保を行い、予定通り終了した。

8) 教員研修計画

2. 学生指導の重点

1) 就職支援・指導計画

本年度の就職率は75%となった。

2) インターンシップ支援・指導計画

コロナの影響のため、インターンシップは無かった。

3) 企業連携、卒業生と在校生連携・情報交換計画

学外企業説明会は、ZOOM等の遠隔となり、学内企業説明会は中止となった。本学院卒業生による企業説明の場を設けるなど、就業意識の向上を図った。

4) 企業・卒業生訪問計画

コロナの為、企業訪問を行う事が出来なかった。本年度より校名が変わったことから、企業等関係者に向けた情報の発信を行った。

3. 教育活動の重点

1) 学生相談支援・指導計画

4月はコロナの影響で個人面談は全てZOOM面談となったが、計画通り進めることができた。

2) 学生健康管理支援・指導計画

コロナ対策として、手指消毒、3密を避けた活動の徹底を行った。

3) 学生生活環境支援計画

対面で会話ができないことから、学生生活に不安を抱える学生が多かった。次年度の課題としたい。

4) 保護者との連携計画

本学院HPを利用し、学生達の活躍を積極的に公開した。

5) 卒業生支援計画

再就職相談、職業紹介を継続して行った。

6) ボランティア活動等による社会活動計画

裏参道祭り、ライラック祭りは中止となった。

7) 休学・退学低減計画

各週水曜日を学校閉鎖日とし、長期休みの圧縮を行うなど、休学・退学に効果があると予定していた計画は、全てコロナのため運営できなかった。次年度も継続してこの計画を遂行することとした。

4. 広報活動

1) 進学相談会計画

コロナの為、進学相談会は8割が中止となった。

2) オープンキャンパス計画

4月と5月はコロナの為オープンキャンパスが中止となった。

オープンキャンパス開催日(全13回)

5月22日、6月12日、6月26日、7月31日、8月28日、9月25日、10月23日

11月13日、11月27日、12月21、22日(：Dcreation)、2月26日、3月26日

3) 中学・高校とのキャリア教育・職業教育連携計画

コロナの為、9割中止となった。

4) 大学・短大・専門学校卒業生、社会人向け募集計画

コロナの為、大学等への訪問を自粛、社会人向けにパンフレットを作成し送付した。

5) 入学案内、HP・SNS等による募集計画

本学院の取り組みを、HP ニュース・SNS 等で積極的に公開した。：Dcreation のプロモーション動画を配信した。

6) 入試制度、奨学制度による募集計画

新奨学金制度については、おおむね混乱も無く計画通り遂行された。

5. 施設設備の改修、充実

①教室椅子の入れ替え

②教育用消耗品の入れ替え(アイロンマット等)

6. 新採用職員

特になし。

7. その他

年次昇給のストップ、賞与80%支給を行った。

令和3年度 旭川調理師専門学校 事業報告

1. 教育目標

(1) 特色ある学校

個人の総合能力を高め、他校との違い・旭調の魅力が際立つ記憶に残る学校教育を進める。

(2) 期待される学校

世界で活躍できるプレゼンテーション能力を身に付け企業が求める人財の育成を進める。

(3) 支援される学校

地域社会との繋がりを大切にし「食育・食文化」を社会に発信、貢献できる教育を進める。

2. 指導の重点

調理師育成のために徹底指導を強化し、わかる人からできる人の育成を目指す。

- (1) 基礎技術の徹底（基本的な料理が作れ、就職できる技術の習得を目指す）
- (2) 人間教育の徹底（基本的な生活習慣や料理人としての心構えを指導）
- (3) 社会人としてのルールマナーを養う（挨拶のできる人、しきたりを身につける）
- (4) 実践力の徹底（レストラン工房を使用し段取り力、接客・販売力を身につける）
- (5) コミュニケーション力を養う（笑顔で表現する能力を身につける）
- (6) 専門職業分野の進む道を指導（それぞれの適職を探り将来の夢を持つ）

3. 教育の重点

- (1) 昨年に引き続きコロナ禍においても、学生の安全と学びの両立を踏まえながら実践型授業に取り組むことが出来た。

①旭川調理師専門学校創立50周年のお祝いランチ会を6/25に実施。

学生と教職員で桶ちらしとスイーツでお祝しました。

②介護福祉施設プランタン様からの依頼があり、9/10ランチ会の料理提供を（ちらし寿司とデザート）行い利用者様に喜んでいただくことが出来ました。

③地域の方の協力により販売会を実施。

9/23～24 近隣の自動車整備工場にて焼き鳥・海鮮焼きの販売

10/30 土別道の駅にてスイーツの販売

④学校祭をドライブスルー形式の販売会に変更して、10/2に実施。

北海道新聞に取材記事が掲載され、一般の方から243件の注文がありましたが予約販売数を超えたため158件はキャンセルをしてしまいました。

⑤道北アークス様の依頼により、12/3 旭川ウエスタンパワーズにて「21種類の栄養満点BOX」を100セット販売し完売。

⑥2年生の集大成である卒業記念レストランを保護者様へメッセージを添えた感謝BOXの手渡しをする形で行いました。

(2) 国内研修の実施。

① 1. 2年生合同で1泊2日の帯広食の研修、カヌー体験、熱気球体験を8/5～6に実施。

② 1. 2年生合同で京王プラザホテル札幌にて日本料理の食べ歩き研修を9/28に実施。

(3) 2年生全員が欠けることなく卒業、就職内定することが出来た。

2021年もコロナ禍で緊急事態宣言が2度あったが、カリキュラムの変更を行い、行事・授業の予定数をこなすことが出来た。

4. 広報活動（定員充足への取り組み）

(1) 5月予定のオープンキャンパスは緊急事態宣言により中止としたが、他6回は予防対策を講じながら実施することができ、28名の入学につなげることが出来た。

(2) 進学ガイダンスが延期、中止となることが増えたため、資料送付のみでの広報活動になるときがあったが、高校の先生からの依頼により、出前授業で雑煮・握りずし・変わり親子丼を体験してもらいアピールすることができた。（12/3、12/7、12/17、12/20に実施）

(3) 次世代職業体験講座の申し込みを24校の中学校から受け、235名に体験をしていただき、中学校の先生ともコミュニケーションをとりながら募集に繋げていけるよう取り組むことが出来た。

5. その他

(1) 校舎も10年目を迎え、いたる所に劣化が見受けられ修繕費が多くかかった。

- ・ 1階トイレ水漏れによる修繕。(経年劣化による)
- ・ 2階調理実習室の空調暖房機、外調機設備の循環ポンプと空気抜弁の劣化による不凍液漏れと噴出がおこり、緊急修理を行った。

(2) 北海道保健福祉部健康グループ指導調査の実施(2022/1/18)

経理上指摘された箇所はなく、報告を求める指摘事項はありませんでしたが口頭で下記の2点指摘され、令和3年度分から改善した。

- ・ 学生の健康診断結果を学籍簿に記載する。
- ・ 卒業証書に学校の所在地を記載する。

1. 学童保育目標

子ども達が安心して過ごせる環境づくりを目指しながら、日々の仲間とのふれあいや、遊びなどを通して、保育活動を推進してきた。その過程で子ども達に次のような成長が見られた。

- ①ものづくり、行事等で困っている友だち、集団に馴染めない友だちに気づかい、支え合い、助け合う態度が育ってきた。(支え合う心)
- ②素直な心で、「ありがとう」「ごめんなさい」「ただいま」と挨拶ができる子どもが育ってきた。(基本的生活習慣)
- ③グループを編成しリーダーを中心に行動できるようになった。(主体的行動)
- ④子ども達で生活・遊びのルールを決め、自ら守り行動できるようになった。(ルールの遵守)
- ⑤宿題、遊び、おやつ、帰りの会、掃除、読み聞かせという一日の流れが定着した。(生活リズム化)
- ⑥上級生が下級生の世話をし、周りの人を優しい心で思いやれるようになった。(やさしい心)
- ⑦子ども達はコロナの感染対策を理解し、マスク・手指消毒・手洗い・黙食、さらに消毒を兼ねた清掃活動も行えるようになったこと。(自己管理)

2. 指導の方針

子どもの発達課題をおさえ、子ども達が「生き生きと自信をもって」日々の活動ができるように、以下の支援を行った。

- (1) 集団の場で一人ひとりが持っている力を発揮し生かせるように努めた。
- (2) 預かるだけではなく、子どもの成長発達への支えとなるような保育・教育活動を進めた。
(子供たちの役割分担、できるまでじっと待つ、ヒントを与える、褒める)
- (3) 日ごろの遊びや行事などは2施設の児童が合同で活動した。
- (4) 宿題・おやつ時の三密を避ける工夫をし環境を整えた。
- (5) 預かりの開始前に園庭、公園、室内等における安全点検を行い事故防止に努めた。
- (6) 集団生活を通してルールを守れるよう意識づくりをした。
- (7) 一人ひとりに丁寧なかかわりを心がけ支援員と児童との信頼関係を築いた。

3. 実践事項

- (1) 子どもが安心して過ごせる心の居場所づくり
 - ①譲り合い、教材の共有、教え合う雰囲気の中で、子ども達が安心して楽しめる環境づくりができた。
 - ②宿題、工作(七夕制作、折り紙、自作カルタ、紙版画など)、文化活動(紙芝居、読み聞かせなど)で自らの創作工夫と仲間との交流ができた。
 - ③グループを結成し、グループ名、係を決め、日々の活動・行事は、グループで行動ができた。
- (2) 日々の活動は「学習」「集団・自由遊び」「設定活動」の3本柱
 - ①学習～宿題、自主的学習課題に取り組ませた。
 - ②遊びは創造遊び(子供たちが考えたゲーム等)を重視した。
 - ③設定活動～四季に応じた活動(七夕制作、ハロウィン、クリスマス、書初め、節分、雛まつりなど)、羊毛活動(お守り、石文鎮・ツリー制作)自然観察(大麻西町公園・平岡公園)、社会見学(北海道開拓の村)、伝統文化(落語・茶道)の体験、そこで得た達成感が次の学びへの意欲につながった。
 - ④活動の後、『思い出ファイル』に記録し、発表の場を設けた。
 - ⑤行事ごとに内容をまとめポスターを作成し廊下に掲示した。

- (3) 新たに取り入れた活動
 - ①生活ルールやコロナ防止に関するポスターを作成し、子ども達の協同意識の高揚を図った。
 - ②夏休みのキャンプの代わりに郊外（アトリエ陶）でBBQを実施した。
 - ③縄文土器ランプ点灯式、江別市郷土資料館で縄文時代を学んだ。
- (4) 小学校、幼稚園、および保護者との連携
 - ①大麻小学校の『学年便り』と『サンサンつうしん』を交換。児童の様子について担当教諭と情報交換を行った。
 - ②『サンサンつうしん』を発行し、子ども達の状況や活動内容を保護者に伝えた。
 - ③新入会児童の保護者と個人懇談を実施し、子ども理解に努めた。
- (5) 外部講師との連携（一例として）
 - ①陶芸体験では、1年生は皿、2年生はコップ、3年生は抹茶椀、4年生は絵本の陶芸作品展に出展し、各賞を受賞した。
 - ②ホームマックのエコ活動で、段ボールの鉢カミネッコンをつくり苗木を育てた。
 - ③お笑い宅急便を招き、腹話術やパネルシアター、手作りの紙芝居、手品などでこども園の園児達との時間を共有した。
 - ④『音楽で遊ぼう』の活動で、体を動かす（リズム）、音を感じる（絵で表現）、ゲーム（つながる）などを行い、音の世界を深めた。
 - ⑤お茶会は、上級生が下級生にお茶を点て、1年間のしめとして自己を振り返る機会となった。
- (6) 継続して実施している活動
 - 誕生会、サンサン通信の発行、ありがとうの会、畑づくり、紙芝居 など
- (7) コロナ禍で実施できなかった活動
 - キャンプ、カミネッコン植樹、もちつき、報告会

4. コロナ自粛期間での対応

- (1) まん延防止等重点措置期間（5/17～6/19、8/27～9/30、2/28～3/24）の対応として保護者に利用自粛を依頼し協力を得た。
- (2) 「安心メール」を開設した。利用自粛期間中の注意事項などを保護者に一括配信し、連絡を密にした。
- (3) 手洗い、マスク着用、ソーシャルディスタンス、黙食を徹底した。
- (4) おやつ時の準備と配布の際には、ビニール手袋を着用した。

5. 開設日数および措置状況

- (1) 令和3年度開設日数 サンサンキッズ287日 第2サンサンキッズ262日
- (2) 措置状況（登録児童数）

令和3年4月1日	サンサンキッズ44人	第2サンサンキッズ39人
令和4年3月1日	サンサンキッズ27人	第2サンサンキッズ28人
退会児童	サンサンキッズ18人	第2サンサンキッズ11人

6. その他

- ①月1回、支援員会議をもち情報の共有に努めると共に支援員の研修を行った。
- ②野幌高校の英語教員とボランティア部との交流を深めた。
- ③地元大学生4人を補助支援員として受け入れた。
- ④入会説明会及び子育て相談の機会を設けた。
- ⑤江別市子育て支援課との連携に努めた。
- ⑥火災、地震、不審者などの対策としてこども園と協同で避難訓練を実施した。
- ⑦子ども達の1年間の成長の様子を記録したDVDを作成し各家庭に配布した。